

道連ニュース

2013年10月号 No.88

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

道連第3回理事会を開催

～北海道生協連は、日生協「被災地生協ボランティア活動支援募金」に10万円応募を決定～

10月3日、第3回理事会が山口理事（コープさっぽろ専務理事）の議事進行で開催されました。確認されました報告事項は①一般活動経過報告②2013年度上期決算（速報）③道連活動見直しアンケート集約④事業提携推進委員会報告⑤ポストIYC講演会・役職員学習会取り組み状況報告⑥日本生協連、北海道・東北地連報告⑦日本生協連北海道支所2013年度上期実績・活動文書報告⑧友好団体、協賛・後援・お知らせ他⑨北海道他からの通知他報告がなされました。

議決事項は①役員・幹部職員研修及び税務経理講習会・監事交流会②福祉活動交流会③日生協「被災地生

協ボランティア活動支援募金」④次回理事会運営の件（日程と場所は確認、詳細時間は調整のうえご連絡することとなりました。）

審議事項として①原発問題②灯油問題③来年度総会日程変更について審議され確認されました。

尚、灯油問題の東北6県との共同中央要請は、理事会資料として、調整した経産大臣あて資料が添付されず、調整していない総務大臣あて要請文が添付されている経過は、調査・対応する旨の発言が前川専務よりあり終了しました。

2013年ポストIYC講演会&役職員学習会を開催しました

10月3日、日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会センター事業団北海道事業本部と北海道生活協同組合連合会の共催で、日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会理事長の永戸祐三氏を講師に「みんなで働く、みんなで生きる～協同労働を社会の力に」というテーマで講演会を開催しました。この会は北海道農業協同組合中央会、北海道漁業協同組合連合会、



講演する永戸祐三氏

北海道森林組合連合会、北海道労働者福祉協議会、北海道労働金庫、全国労働者共済生活協同組合連合会北海道本部、大学生協同組合連合会北海道事業連合、全国大学生協同組合連合



会北海道ブロック、日本生活協同組合連合会営業本部北海道支所、北海道労働者協同組合（ワーカーズコープ北海道）、生活協同組合北海道高齢協、共栄火災海上保険株式

会社北海道支店の後援をいただきました。麻田信二北海道生活協同組合連合会会長の挨拶で開会し、83名が永戸氏の話に耳を傾けました。大橋拓哉北海道労働金庫専務理事の挨拶で閉会となりましたが、「永戸理事長のユーモアを交えながらのお話はとても興味深く、のめりこめる内容でした。」「協同組合のあり方について考えさせられました。」などの感想が寄せられました。

★生活クラブ★

今年も10月6日(日)、札幌コンベンションセンターにて、「わくわくまつり・つくる手食べる手 その手はひとつ」が開催され、約4000人の来場者がありました。

4月より、組合員有志の実行委員会を起ち上げ、どんなまつりにしたいか意見を出し合いながら作りあげました。子ども連れの若い親子に来てもらいたい、生活クラブの消費材をアピールしたい、ゴミを出さないようマイ食器持参を呼びかけたい、かぜるちゃん風力発電の電気を使いたい、など生活クラブらしいまつりを体感できるように、テーマは「見たい！知りたいたい！食べたい！」に決めました。

当日は、道内と道外の提携生産者の試食販売コーナーに、多くの組合員が手伝い、生産者と組合員が共に作りあげることができました。その他に模擬店コーナー、子どもが遊べる子どもコーナー、まつり実行委員

会企画、消費材「ここが違う」など、準備する組合員も参加する来場者も、わくわくするような楽しい雰囲気で行われました。小さな子どもたちに向けて、座って食べられる子どもイスコーナーの設置や、ゲストによるバルーンショーがあり、子ども達が目を輝かせていました。ステージでは、高校生による大太鼓、子ども達のダンスや歌、脱原発のギリシャ神話劇、大抽選会など行われ、まつり全体を盛り上げました。

わくわくまつりは、とても楽しく充実したものとなり、無事盛況に終わりました。



虹友会40周年企画「交流と視察 in 福島」に参加して

虹友会（北海道の生協役職員のOB・OG会）の創立40周年を記念して、有意義な旅行として企画され、私も参加することになりました。原発問題や東日本大震災の復興問題に関心を持つ6名の虹友会会員が参加され、福島県生協連が作成した「視察&交流コース」に基づき、10月7日から2泊3日で県内各地を視察しました。
<放射能汚染との戦い>

まずは基礎知識を学ぶということで、福島大学の野川教授から2時間の講義と野外での放射線測定器を使っての実習を受けました。その上で、県生協連の佐藤専務から「子ども保養PJ（コヨット）」と「土壌スクリーニングPJ（どじょスク）」を中心に2時間のレクチャーを受けました。（PJ取組の詳細は福島県連のホームページをご覧ください）最初の衝撃は、国も県もこれらのPJに冷淡であることです。財政的支援をしないばかりか、「余計な事をしている」「放射能被害を誇張するな」と言わんばかりの態度のようです。コヨットは全国の生協ネットワークとユニセフのボランティア及び資金で全て支えられています。そして、どじょスクは農協と生協のボランティアで協同組合間提携として取り組まれているのが実態です（この取り組みは、書名「農の再生と食の安全～原発事故と福島の2年」新日本出版社に詳しい）。

二日目は、どじょスクに取り組むJA新ふくしまの紺野さんの案内で福島市内の水田調査を視察し、収穫真っ最中の米の放射能全袋検査場を見学。

<「除染作業中」の幟はためく無人地帯>

福島市の隣町＝川俣町の山木屋地区を訪問しました。「避難解除準備地区」というのですが、昼間は入



域可能ですが夜間の寝泊まりは不可、営業も不可の地域です。道路沿いの水田と思われる表土が全て剥がされ、黒いビニ-

ルの塊が延々と積み上げられています。除染されていない水田は、セイタカアワダチソウが全面占拠しています。実は福島市内でも、同程度の汚染地区はたくさんあるそうです。しかし、「人口30万人の福島市民を避難させる手立てがない」という理由から、福島市は避難地区に指定されなかったそうです。



<遅々として復旧進まぬ津波被災地>

パルシステム福島の安斎専務さんの案内で、福島第1原発を目指し、いわき市からJビレッジを通過して「この先帰還困難地区につき通行止め」の看板が立つ「立ち入り禁止ゲート」まで行きUターン。海岸沿いのJR富岡駅跡を訪ねると、駅舎は無く床と改札柵を残して全てが津波で流されてそのままになっています。駅前中華料理店も住居も商店も、1階は破壊尽くされたままに残っています。犠牲者を表示しているのか、車や家の壁に「人」「人人」の文字。しかしこの地区に住む人はだれもおりません。

久ノ浜地区を訪問し「仮設商店街」（10軒）で買い物を勧められました。電器屋さんは津波と火災のビデオを流し、堰を切ったように被害の状況を説明してくれます。「皆で写真を撮りましょう」と商店主たちと記念撮影。帰り際、沈降する思いの私達に、商工会の青年は「来てくれてありがとうございます」と笑顔で声をかけてくれましたが、返す言葉がありません。

<原発のない北海道を100万人署名の成功を>

中味の濃い三日間でした。地震津波は自然現象だが、原発災害も復旧遅れも人災です。ならば、私達の決意と努力で変えられるはず。そんな思いをさせる福島視察でした。

（元北海道生協連 事務局長 佐藤静男）

北海道勤労者住宅生協 『第13回住宅生協友の会交流会』を開催

北海道住宅生協では、組合員、労組・福祉事業団体役員OBなどで組織された「友の会」の活動を支援しております。会員217名で会員相互の親睦を図りながら住宅に関する情報の伝達収集や研修会を実施しております。

今年も9月26日K K Rホテル札幌にて恒例の「第13



回住宅生協友の会交流会」が開催され、79名が参加されました。

パワーポイントを使用した学習会では、リフォーム工事について、工事の実

施時期、業者の選択、見積書、悪質業者の見分け方など全般にわたり学習しました。

その他、会員によるフラメンコギターと歌と踊りの「フラメンコライブ」や「北海道銘菓をゲットしよう！」ゲームなどで楽しく懇親をし、盛会裏に交流会を終える事ができました。

「住宅生協の応援団」としてのOBの方々の“元気パワー”をいただき感謝を申し上げます。

